

【編集後記】

《24生》

編集後記.....ではありますが、まだいろいろな編集作業が終わっていないのが現状です。編集後記のレイアウトも担当しているため、別に最後に書いても問題ないのですが、それをしてしまうとレイアウトがもの見事に崩れてしまうため、こうして先に書いていく次第であります。今回、編集長になって2冊目にして最後である飛翔の編集作業ですが、1年生が18人も入ってくれて、かなり大人数での作成になりました。さらに、たくさん入ってくれたのはもちろんのこと、途中リタイアすることなく、全員最後まで頑張ってくれたことは、非常に喜ばしいことだと思います。本当にお疲れ様でした。後期では、取材に加えて編集作業もやることになり、飛翔作成のまた違った側面を見ることができると思うので、少しでも多くの方が編集委員として残ってもらえれば嬉しいです。最後に、飛翔を作る上で多大なるサポートをしてくださった事務の方々、取材に応じてくださった先生方やOB・OGさん方、そして取材や編集を頑張ってくれた編集委員のみんなに感謝の意を表し、編集後記とさせていただきます。皆さん、本当にありがとうございました。

上野 裕介

今回、編集の仕事をしました。今まで原稿を書いた後のことにはあまり関わってこなかったのですが、原稿を集めたり校正したりといった、原稿を書いた後の苦勞を知ることができ良かったです。私にとってこの号が最後の仕事です。飛翔の仕事を通して貴重な体験ができ、ここまで続けてきてよかったと思います。ありがとうございました。

岡添 りえ

今回は副編集長、そしてOB/OG紹介を担当させていただきました。今号では多くの1年生が飛翔編集員として頑張ってくれました。なかなかバタバタとして大変でしたが何とか完成できて嬉しいです。新入生が一生懸命作った飛翔、ぜひ隅々まで読んでお楽しみください！

藤本 迪子

今回の飛翔は 25 が主体ということで、24 編集委員は主に裏方的な役割でした。24 編集委員が関わった飛翔は、もう 3 冊(?)目なんですね……。速いですね。私は、主に特集のページを担当しましたが、食堂関係は毎年(?)あるんですかね。去年キャンパス内の食堂巡りをしたことを思い出しました。飛翔をやっていると新しい人間関係ができることもあって、編集委員をやってよかったと思っています。

原田 みずほ

《 25 生 》

私は研究室紹介で荒見先生からお話を伺いました。先生が自分の研究や今までのことをキラキラした笑顔で一生懸命話される姿が印象的でした。インタビューを丸ごと載せたい位、とっても楽しく有意義なインタビューでした！

赤坂 由梨子

〆切を守るのは難しいし、文章を書くのは大変な仕事である。インタビューも編集もはじめっから職人の技なのだ。素人がする手抜きなどきっと見透かされているのだろう。自分の書いたものが人に読まれるとき、本当は自信満々で堂々としていたものだが、なかなか上手く行かない。だがそれがわかっただけでもいいのかも知れない。この編集後記も〆切を伸ばしに伸ばしてもらいました。上野さん、原田さん、迷惑をかけました。読者の方、ありがとうございます。

新垣 さくら

初めて編集に携わる仕事をしてみて、1 冊の広報誌を作り上げるだけでも多くの方の協力と労力と時間がかかるんだと実感しました。また、研究室紹介や OG 紹介で様々なお話を聞くことができ、総科という学部を改めて考えられたと思います。

上江洲 まどか

研究室訪問では、普段なかなか聞けない先生のお話をじっくり聞く良い機会になりました。先生と意気投合して取材が盛り上がり、2時間ほど楽しませてもらったのは良かったんですが！！そのあとの文字起こしで苦勞することになりますよねー。いい思い出です。おかげでタイピングも上達しました。また、OB取材にも参加させてもらい10年前の広大総科生とも関わることができました。飛翔を通して様々な出会いがあり、成長できたなーと思います。

大城 温子

今回の飛翔の編集の仕事は、私にとって初めての経験ばかりでした。取材に行くのも初めてだったし、インタビューを文字起こすのも初めてでした。大変なこともいっぱいあったけど、何とか形にすることができて嬉しいです。でも、締め切りも守れなくて、反省するべきところがたくさんありました。支えてくれてくれた先輩や、仲間感謝したいと思います。

大塚 侑奈

飛翔の編集に携わる中で、総科OGの方や先生方など、たくさんの方々と話す機会をいただき、とても勉強になりました。他人の話を自分が聞いて、理解し、より多くの人に伝える、ということの面白さとむずかしさを学ぶことができ、自分にとって本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

小林 美月

どうにかこうにか、教授インタビューや特集記事を完成させほっとしているところです。この飛翔の仕事を通して、インタビューや文を噛み砕いてまとめるテクニックなどを学びましたが、僕にとって最大の収穫は、知らない人と話して、心を通わせることは楽しいということを再認識できたことでした。飛翔の仕事をしていると否が応でも、先輩や他の班の人、教授などとコミュニケーションをとらなければなりません。それをストレスと思うか、自分にとっての貴重な財産と思うかは自分次第です。しかし僕は、出会いを与えてくれ、そしてその出会いを実りあるものにしてくれた飛翔に感謝しています。

島田 優太郎

先方にアポをとったりそれを文章にまとめたり、予想以上に大変でしたが、同じグループのメンバーと取材に行ったり。インタビューしたりして楽しかったです！人見知りで無愛想なコミュ障のわたしは、こういう機会がないと人と話したりすることがないので。ただ特集を作るのはあんまり時間がなかったので次回の85号では、もっと充実した内容にしたいと思っています！個人的には、私は実委に入っているので大学祭とのコラボ企画の特集を・・・と思っておりますが、ほかの編集委員と要相談ですね。

藤井 美紗貴

飛翔第一号。思ったより手間と時間がかかった。面白かったのは研究室紹介。講義では聞けないことも、少し脱線しながらたくさん聞いた。気になることを質問すると、一つ一つ答えていただいた。私はそのインタビューの中で2セメに取りたい授業ができた。飛翔には意外と面白いことが書いてあります。ぜひ時間があるとき眺めてみてください。飛翔に限らず、興味なかったのに興味引かれることがあれば、それは素敵な出会いだと思います。

藤尾 春菜

今回研究室への取材をさせていただきました。普段人づきあいが希薄であることがたたって、実際取材する段になると緊張して頭が回らなくなり、気の利いた質問ができませんでした。しかし一緒に取材に行った仲間が話題をふって話を盛り上げてくれ、無事取材を終えることができました。どうもありがとうございました。

古江 悠哲

自分が質問して聞いたことを、第三者の方々にすっきり伝わるように編集する作業は大変でした。ちょっとした言葉の言い回しやチョイスで相手への伝わり方も変わってくるので、出来るだけ客観的に文章を見つめることを意識して作りました。1ページ1ページ私たちに丁寧に作りました。是非読んでください。

星原 有里

人にインタビューするという体験は、もしかすると今回の飛翔での体験が初めてかもしれません。少なくとも、録音機を持っていき、戻って字に起こすという本格的なインタビューは間違いなく人生で初めてのことでした。上手く話せなかったり、先生へのメールの文面に戸惑ったりと困ったこともありました。とてもいい経験になったと思います。

丸本 千枝

今回初めて飛翔編集委員として取材をさせていただきました。研究室紹介では、普段私たちが当たり前のように話している言葉の中にも実は決まり事があるなど、たくさんのごことに気付かされ、実りある取材になりました。このような取材を通じて、聞く力・発信する力を身につけながら、自分の関心分野を広げていけたらいいなと思います。お忙しい中私たちの取材に応じてくださった先生方、OB・OGのみなさん、ありがとうございました。

三山 まりこ

飛翔の編集員として僕は、教授や、食堂で働いている方にインタビューしました。そして無事、飛翔を完成させることができました。これはお忙しい中、取材を快く承諾してくださった方々はもちろん、協力してくれた飛翔のメンバーのお陰だと思っています。本当にありがとうございました。

村長 俊亮

研究室にお邪魔する前まで教授は私にとってとても遠い存在でしたが、インタビューを通して教授との距離を縮めることが出来たような気がして嬉しかったです。たくさんのお話を聞かせていただき、大変感謝しています。これからの生活に飛翔の経験を生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

森田 みなみ

編集は正直時間もかかり、まったく楽勝だとは思いませんでした。でも、飛翔の編集を通していい友達ができ、すごく楽しかった思い出もあります。編集をして何より良かったと思うのは、教授へのインタビューがきっかけで、夏休みに「マレーシア熱帯雨林研修」に行けるチャンスを掴むことが出来たことです。自分の興味のある分野を研究している教授と会話する機会など、一年生の間はなかなかありません。しかし、飛翔の編集に加わったことで教授とお話をする機会を得ることが出来ました。そこでは、たくさんの情報を収集することが出来、実際に興味があったマレーシア熱帯雨林に行く機会も得たのです。飛翔の編集はわたしにとってとても価値あるものでした。

湯浅 梨奈

このように、インタビューや編集をするのは初めてだったため不安でしたが、同じグループの皆と協力したり先輩方に助けていただいたりしながら頑張ることが出来ました。特に研究室紹介では、先生から興味深いお話をたくさん聞くことができ、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

米田 千紘

飛翔の仕事は緊張することも多く、いい経験になりました。今はなんとか無事仕事を終えてほっとしています。アドバイスをくれた先輩方、一緒にインタビューや編集をした 25 のみんな、そしてインタビューに快く応えて下さった奥田先生、総科食堂の店長さん、本当にありがとうございました！

渡邊 恭平

《教員・事務の方々》

飛翔編集作業お疲れ様でした。一年前に自分が書いた編集後記を改めて見ると、一年生がたくさん入ってくれて嬉しいですと書いてありましたが、実際今回の飛翔は大勢の方が参加していて、とても充実した紙面になっているように思います。飛翔編集委員の皆さんが、新たな出会い満載の取材活動や、自己表現や文章上達の訓練にもなる編集作業を、協力し合ってとても楽しく行っているのが伝わってきて、隅々まで楽しく読める内容になっていると思いました。

城戸 光世

飛翔 84 号、楽しく読ませていただきました。特に先生方へのインタビュー、先生方の仕事をわかりやすく、また先生の思想を含んだ形で書かれていて、とても楽しく読ませていただきました。先生方の説明上手もあるでしょうけれど、上手に文章にしてくれましたね。私は総科に来てまだ 1 年半です。私にとっても、飛翔の研究室紹介記事は、この先生、こんなことされてるんだ～、こんな人柄なんだ～と総科の先生方について知る良い機会となっています。先生とのインタビューを通じてマレーシア熱帯雨林研修に行けた学生さんもいるのですね。うらやましい！ 編集作業は大変だったと思いますが、作業そのものも、付随する様々な体験や経験がきっとみなさんの糧になったと思います。また新たなことに挑戦して下さい。

佐藤 明子

Faculty of Integrated Arts and Sciences

総合科学部報『飛翔』

2013年10月発行 通巻84号

広島大学

総合科学研究科・総合科学部

広報出版委員会

〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1

TEL 082-424-6320